



統制ベースの統制システム表記規則マニュアル

ARIS Risk & Compliance Manager

バージョン 9.7 SR 1

2015 年 1 月

This document applies to ARIS Risk & Compliance Manager Version 9.7 and to all subsequent releases. Specifications contained herein are subject to change and these changes will be reported in subsequent release notes or new editions.

Copyright © 2010 - 2015 [Software AG](#), Darmstadt, Germany and/or Software AG USA Inc., Reston, VA, USA, and/or its subsidiaries and/or its affiliates and/or their licensors.

The name Software AG and all Software AG product names are either trademarks or registered trademarks of Software AG and/or Software AG USA Inc. and/or its subsidiaries and/or its affiliates and/or their licensors. Other company and product names mentioned herein may be trademarks of their respective owners. Detailed information on trademarks and patents owned by Software AG and/or its subsidiaries is located at <http://documentation.softwareag.com/legal/>.

Use of this software is subject to adherence to Software AG's licensing conditions and terms. These terms are part of the product documentation, located at <http://documentation.softwareag.com/legal/> and/or in the root installation directory of the licensed product(s).

This software may include portions of third-party products. For third-party copyright notices and license terms, please refer to "License Texts, Copyright Notices and Disclaimers of Third Party Products". This document is part of the product documentation, located at <http://documentation.softwareag.com/legal/> and/or in the root installation directory of the licensed product(s).



目次

| | | |
|-------|-----------------------------|----|
| 1 | はじめに..... | 1 |
| 2 | 本マニュアルの内容 | 2 |
| 2.1 | 目的および範囲 | 2 |
| 3 | ARIS 表記規則 | 3 |
| 3.1 | モデリング レベルおよびモデル タイプ | 3 |
| 3.1.1 | モデリング レベルおよびモデル タイプの概要..... | 3 |
| 3.1.2 | 統制およびプロセスの識別 | 4 |
| 3.1.3 | 企業の追加階層の文書化 | 10 |
| 3.1.4 | ユーザーとユーザー グループの作成 | 20 |
| 3.1.5 | 統制およびリスクの分析と、検査の展開..... | 25 |
| 3.1.6 | サインオフ | 36 |
| 3.2 | オブジェクトと関係の非アクティブ化 | 40 |



1 はじめに

ARIS のモデルを用いて業務プロセスと業務ファンクションを記録すると、(一貫性、複雑さの軽減、再利用性、評価の可能性、整合性など) さまざまな利点があります。

ただしこれは、ARIS Architect でのモデリングのメソッドおよび機能の規則と表記規則が順守されている場合のみ実行できます。これらのルールに従った場合にのみ、すべてのモデル化されたデータは ARIS Risk & Compliance Manager (ARCM) に転送されて、再利用することができます。



2 本マニュアルの内容

以下の各セクションでは、説明ビュー、モデル タイプ、オブジェクト タイプ、関係タイプと接続線タイプ、および属性の使用に関する標準を説明します。

2.1 目的および範囲

目的: モデリング ガイドラインの仕様設計

本マニュアルに含まれないもの: ユーザー文書



3 ARIS 表記規則

3.1 モデリング レベルおよびモデル タイプ

3.1.1 モデリング レベルおよびモデル タイプの概要

以下の図は、プロセス モデリングのレベル、およびそのレベルで使用が推奨されるプロセス モデル タイプを示しています。

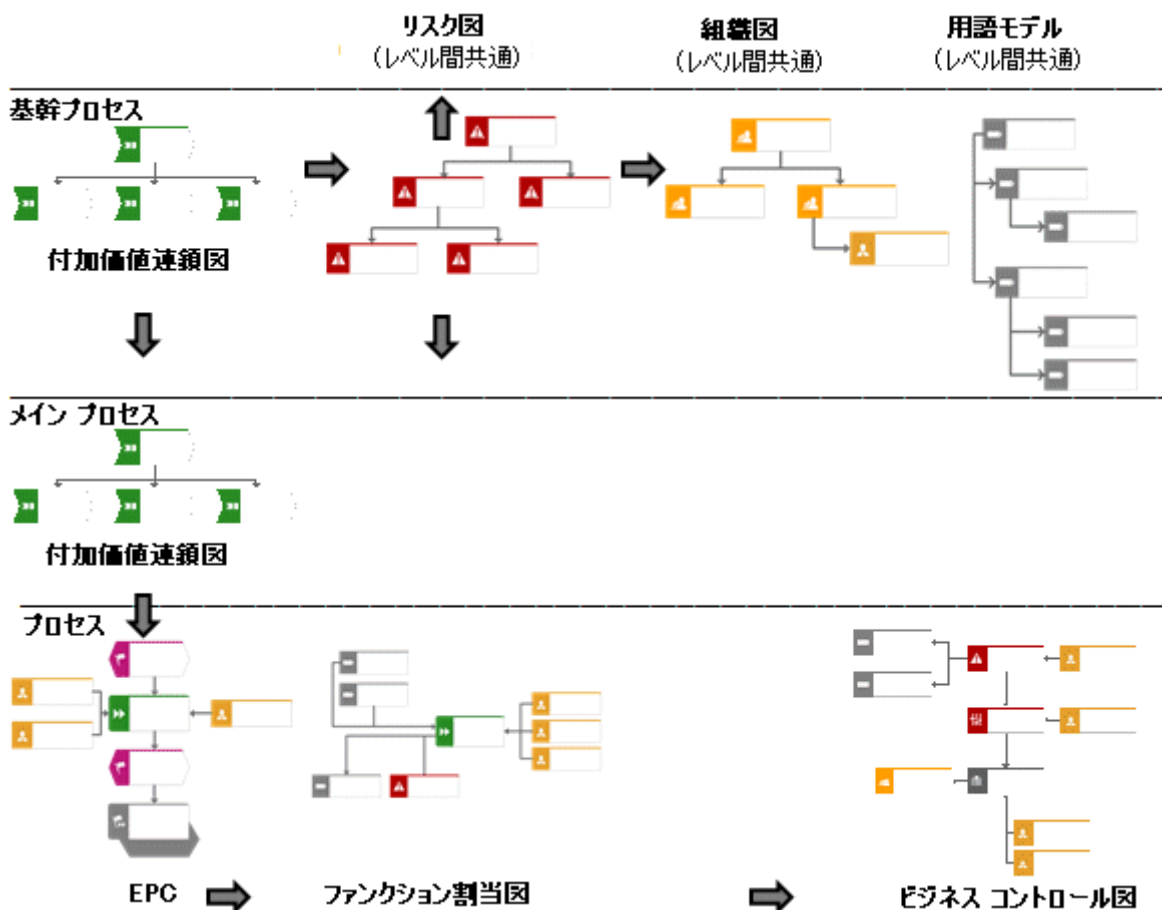


図 1: モデリング レベルおよびモデル タイプ



3.1.2 統制およびプロセスの識別

3.1.2.1 プロセス モデル

次のプロセス モデルは、プロセス ランドスケープ/プロセス階層を設定するために使用できます。

| モデル名 | モデル タイプ番号 |
|-----------------|-----------|
| 付加価値連鎖図 | 12 |
| EPC | 13 |
| ファンクション割当図 | 14 |
| PCD | 18 |
| EPC (マテリアル フロー) | 50 |
| PCD (マテリアル フロー) | 51 |
| EPC (列表示) | 134 |
| EPC (行表示) | 140 |
| EPC (テーブル表示) | 154 |
| EPC (水平テーブル表示) | 173 |

次の章には、プロセス ランドスケープのモデル作成例が含まれます。

3.1.2.2 レベル 1 でのプロセスのモデル化 - 付加価値連鎖図 (VACD)

概要プロセス モデルはレベル 1 の中心モデルです。このモデルは、[付加価値連鎖図] モデル タイプを使用してモデル化されます。この基幹プロセスの概要はエントリ モデルとして使用されます。

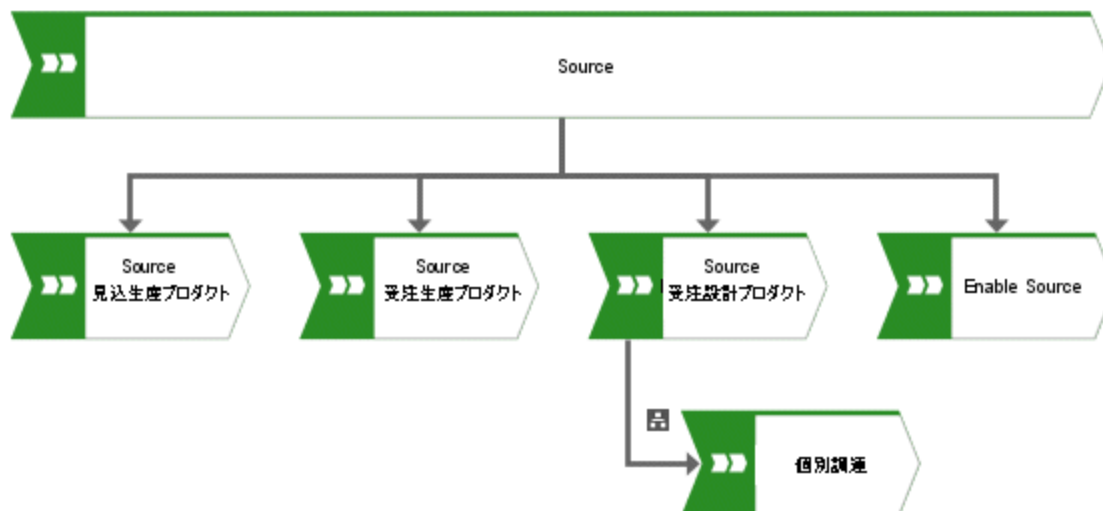


図 2: レベル 1 - 付加価値連鎖図

使用されるオブジェクト タイプは [ファンクション] (OT_FUNC) です。オブジェクト間の階層は、[プロセス指向的に上位にある] 接続線または [プロセス指向的に下位にある] 接続線を使用してマッピングします。

ARIS Risk & Compliance Manager では、使用できる階層のツリー構造は 1 つだけです。したがって、各ファンクションの上位ファンクションは 1 つしかありません。

次のモデル タイプは、VACD で 1 つのオブジェクト タイプにアサインできます。

| オブジェクト タイプ | アサインされるモデル タイプ |
|------------------|----------------|
| ファンクション [付加価値連鎖] | VACD |
| ファンクション [付加価値連鎖] | ファンクション割当図 |

階層要素は、関連するファンクションごとに ARIS Risk & Compliance Manager で作成されます。例外: 最上位階層要素は既に ARIS Risk & Compliance Manager に存在しています。



3.1.2.2.1 ファンクションとプロセス階層要素 (ARCM) の割り当て

次の割り当ては [ファンクション] オブジェクトに適用できます。

| ARIS オブジェクト | ARIS 属性 | API 名 | M* | ARCM オブジェクト | ARCM 属性 | 注意 |
|-------------|---------|--------------------------|----|-------------|-------------|---|
| ファンクション | 名前 | AT_NAME | ○ | HIERARCHY | name | |
| | | | | HIERARCHY | isroot | 最上位階層要素に対してのみ「true」 |
| | | | | HIERARCHY | hnumber | プロセス階層には関係なし |
| | | | | HIERARCHY | type | プロセス階層 (値 4) |
| ファンクション | 説明/定義 | AT_DESC | | HIERARCHY | description | |
| | | | ○ | HIERARCHY | status | アクティブの場合、ステータスは「true」 |
| ファンクション | サインオフ関連 | AT_AAM_SIGN_OFF_RELEVANT | ○ | HIERARCHY | signoff | |
| ファンクション | モデル リンク | AT_AAM_MOD_LINK | | HIERARCHY | modellink | |
| | | | | HIERARCHY | modelguid | ファンクションのオカレンスを含むモデルの GUID。最初に使用できるプロセス モデル (EPC、VACD など) が選択されます。 |
| | | | | HIERARCHY | model_name | モデル名 (上記参照) |



| ARIS オブジェクト | ARIS 属性 | API 名 | M* | ARCM オブジェクト | ARCM 属性 | 注意 |
|-------------|--------------|-----------------|----|----------------|------------|------------------|
| ファンクション | オブジェクト リンク | AT_AAM_OBJ_LINK | | HIERARCHY | objectlink | |
| ファンクション | オブジェクトの GUID | | | HIERARCHY | objectguid | |
| | | | | HIERARCHY | children | 下位階層要素 |
| | | | | HIERARCHY | so_owner | 関連するサインオフ所有者グループ |
| | | | | HIERARCHY | tester | この階層タイプには関係なし |

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

3.1.2.3 レベル 2 でのプロセスのモデル化 - 付加価値連鎖図 (VACD)

付加価値連鎖図はレベル 2 のモデルとして使われます。レベル 2 は、メイン プロセスを表し、レベル 3 の下位プロセスのコンテキストをマッピングするために使用されます。



図 3: レベル 2 - 付加価値連鎖図

付加価値連鎖としてモデリングされる基幹プロセスに関しても、同様の規則が適用されます。

次のモデル タイプは、VACD でオブジェクト タイプにアサインできます。

| オブジェクト タイプ | アサインされるモデル タイプ |
|------------|----------------|
| ファンクション | EPC |
| ファンクション | ファンクション割当図 |

3.1.2.4 レベル 3 のプロセスおよび統制モデル作成 - イベント駆動プロセス連鎖図 (EPC)

EPC を使用して、企業のプロセスを記述することができます。この EPC は、実行される活動の論理的および時系列的な流れに基づいています。さらに、一連のファンクションおよびその結果としてのイベントも使用されます。このような簡略化したプロセスに、追加情報を含むほかのオブジェクト（組織ユニット、役職（役割）、アプリケーション システムなど）を補足することができます。このため、たとえば [実行される] 接続線を持つ統制は、EPC のファンクションに直接接続できます。

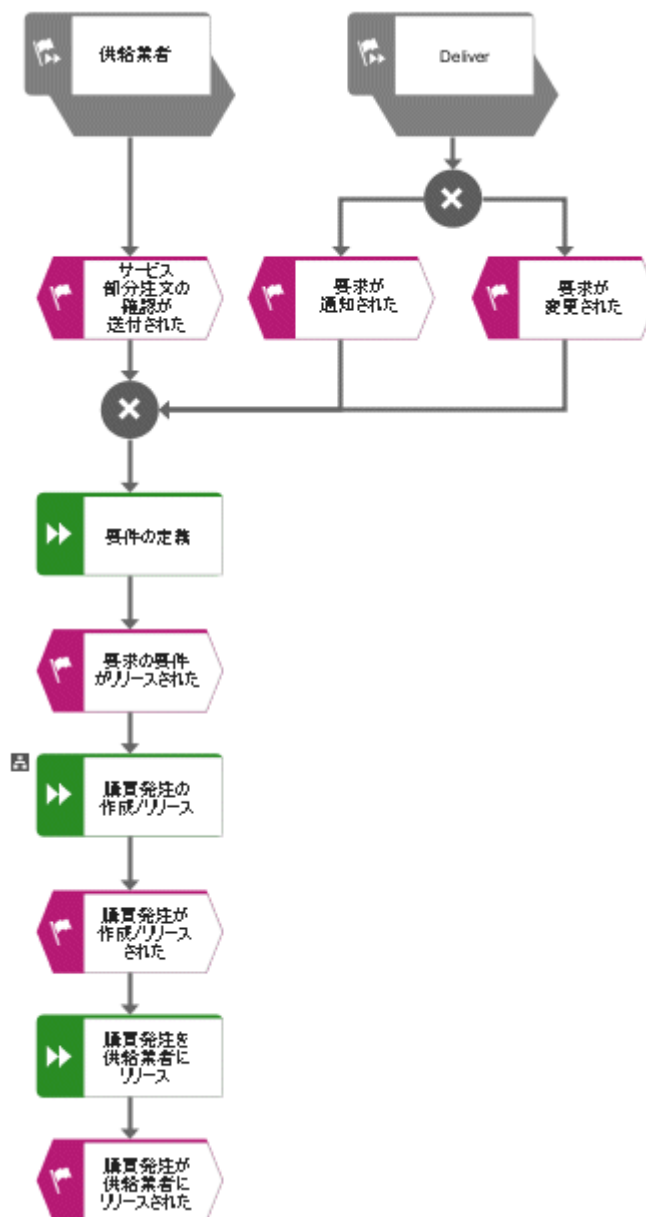


図 4: レベル 3 - イベント駆動プロセス連鎖図

次のモデル タイプは、EPC でオブジェクト タイプにアサインできます。



| オブジェクト タイプ | アサインされるモデル タイプ |
|-----------------------|----------------|
| ファンクション | EPC |
| ファンクション | ファンクション割当図 |
| 統制 (OT_FUNC、ST_CONTR) | EPC |
| 統制 (OT_FUNC、ST_CONTR) | ビジネス コントロール図 |

レベル 3 - ファンクション割当図 (FAD)

EPC は、簡略化した EPC (つまり、組織ユニット、役職およびアプリケーション システムを含めない) としてモデル化することもできます。こうした追加オブジェクトとファンクションとの関係は、ファンクション割当図でモデル化され、ファンクションにアサインされます。ファンクション割当図のオブジェクトとシンボル タイプを使用することによって、簡略 EPC を拡張 EPC にすることができます。そのオブジェクトとシンボル タイプは次のとおりです。

- ファンクション
- 役職
- 組織ユニット
- 組織ユニット タイプ
- グループ
- 役割
- 内部要員
- アプリケーション システム
- アプリケーション システム タイプ
- 情報媒体 (ファイル、文書)
- 統制 (オブジェクト タイプ: OT_FUNC、シンボル タイプ: ST_CONTR)

3.1.3 企業の追加階層の文書化

ARIS Risk & Compliance Manager に転送されるすべての階層に使用できるツリー構造は 1 つだけです。つまり、階層の各要素の上位アイテムは 1 つのみです。



3.1.3.1 規定階層

規定階層は、[用語] オブジェクト (OT_Tech_TRM) を使用して、ARIS の用語モデルでモデル化されます。[規定] 属性は、一意に規定 (API 名: AT_AAM_ANNUAL_ACCOUNTS_ITEM) を識別するために使用できます。オブジェクト間の階層は、[持つ] 接続線を使用してマッピングします。

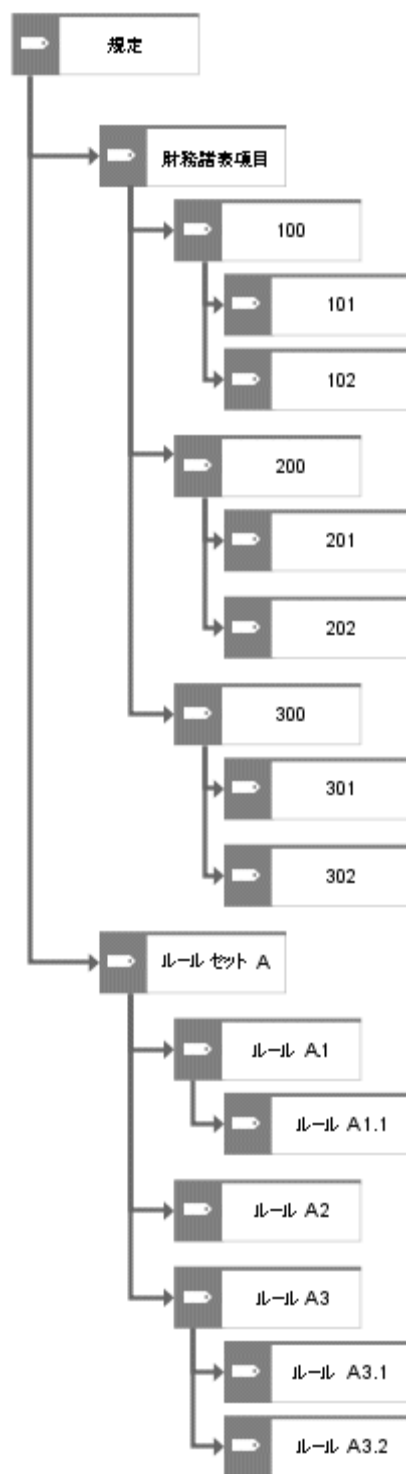


図 5: 規定階層構造



3.1.3.1.1 用語 (ABA) と規定階層要素 (ARCM) の割り当て

次の属性割り当ては [用語] オブジェクトに適用できます。

| ARIS オブジェクト | ARIS 属性 | API 名 | M* | ARCM オブジェクト | ARCM 属性 | 注意 |
|-------------|---------|--------------------------|----|-------------|-------------|--|
| 用語 | 名前 | AT_NAME | ○ | HIERARCHY | name | |
| | | | | HIERARCHY | isroot | 最上位階層要素に対してのみ「true」 |
| 用語 | 概要説明 | AT_SHORT_DESC | | HIERARCHY | hnumber | |
| | | | | HIERARCHY | type | 規定階層 (値 2) |
| 用語 | 説明/定義 | AT_DESC | | HIERARCHY | description | |
| | | | ○ | HIERARCHY | status | アクティブの場合、ステータスは「true」 |
| 用語 | サインオフ関連 | AT_AAM_SIGN_OFF_RELEVANT | ○ | HIERARCHY | signoff | |
| 用語 | モデル リンク | AT_AAM_MOD_LINK | | HIERARCHY | modellink | |
| | | | | HIERARCHY | modelguid | 用語のオカレンスを含むモデルの GUID。最初に利用できる用語モデルが選択されます。 |
| | | | | HIERARCHY | model_name | モデル名 (上記参照) |



| ARIS オブジェクト | ARIS 属性 | API 名 | M* | ARCM オブジェクト | ARCM 属性 | 注意 |
|-------------|--------------|-----------------|----|----------------|------------|------------------|
| 用語 | オブジェクト リンク | AT_AAM_OBJ_LINK | | HIERARCHY | objectlink | |
| 用語 | オブジェクトの GUID | | | HIERARCHY | objectguid | |
| | | | | HIERARCHY | children | 下位階層要素 |
| | | | | HIERARCHY | so_owner | 関連するサインオフ所有者グループ |
| | | | | HIERARCHY | tester | この階層タイプには関係なし |

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。



3.1.3.2 検査者の階層

検査者の階層は、[組織ユニット] オブジェクト (OT_ORG_UNIT) を使用して ARIS の組織図でモデル化されます。オブジェクト間の階層は、[上位にある] 接続線を使用してマッピングされます。

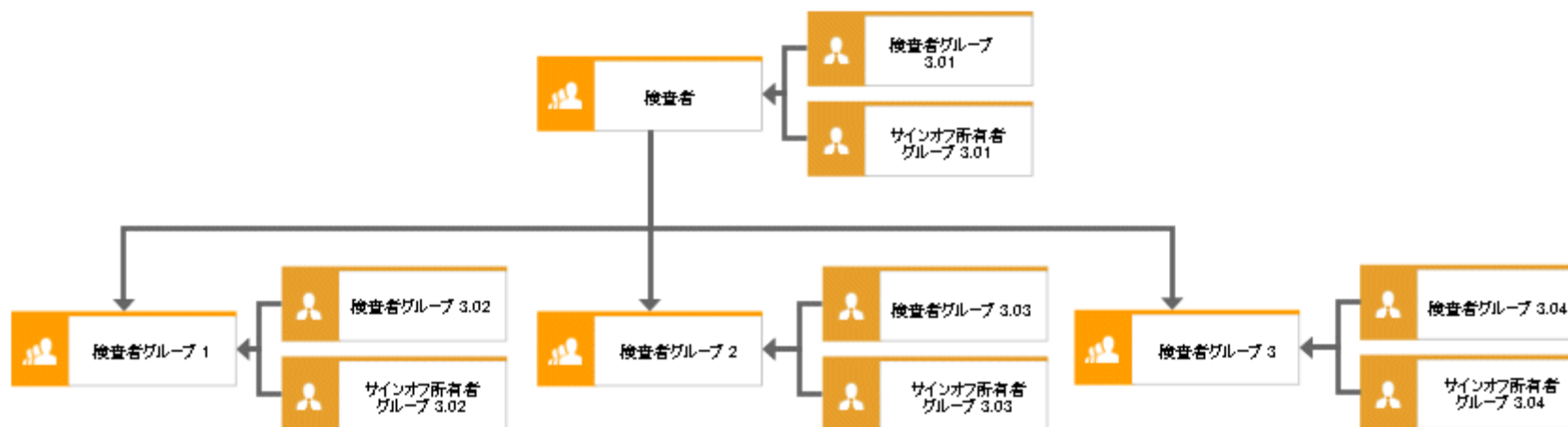


図 6: 検査者の階層

そのため、ARIS Risk & Compliance Manager では検査者の階層要素は組織ユニットごとに作成されます (例外: 最上位階層要素は既に ARCM に存在しています)。現在、各階層要素は、1 ユーザー グループ 『20 ページ』にのみ割り当てることができます。

このため、上の例では検査者階層要素 [検査者]、[検査者グループ 1]、[検査者グループ 2]、[検査者グループ 3] が ARIS Risk & Compliance Manager で作成されます。[検査者] は、他の階層要素の上位に位置します。



3.1.3.2.1 組織ユニット (ABA) と検査者階層要素 (ARCM) の割り当て

次の属性割り当ては [組織ユニット] オブジェクトに適用できます。

| ARIS オブジェクト | ARIS 属性 | API 名 | M* | ARCM オブジェクト | ARCM 属性 | 注意 |
|-------------|---------|--------------------------|----|-------------|-------------|--|
| 組織ユニット | 名前 | AT_NAME | ○ | HIERARCHY | name | |
| | | | | HIERARCHY | isroot | 最上位階層要素に対してのみ「true」 |
| | | | | HIERARCHY | hnumber | 検査者階層には関係なし |
| | | | | HIERARCHY | type | 検査者階層 (値 = 1) |
| 組織ユニット | 説明/定義 | AT_DESC | | HIERARCHY | description | |
| | | | ○ | HIERARCHY | status | アクティブの場合、ステータスは「true」 |
| 組織ユニット | サインオフ関連 | AT_AAM_SIGN_OFF_RELEVANT | ○ | HIERARCHY | signoff | |
| 組織ユニット | モデル リンク | AT_AAM_MOD_LINK | | HIERARCHY | modellink | |
| | | | | HIERARCHY | modelguid | 組織ユニットのオカレンスを含むモデルの GUID。最初に利用できる組織図が選択されます。 |
| | | | | HIERARCHY | model_name | モデル名 (上記参照) |



| | | | | | | |
|--------|--------------|-----------------|--|-----------|------------|------------------|
| 組織ユニット | オブジェクト リンク | AT_AAM_OBJ_LINK | | HIERARCHY | objectlink | |
| 組織ユニット | オブジェクトの GUID | | | HIERARCHY | objectguid | |
| | | | | HIERARCHY | children | 下位階層ユニット |
| | | | | HIERARCHY | so_owner | 関連するサインオフ所有者グループ |
| | | | | HIERARCHY | tester | 関連する検査者グループ |

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。



3.1.3.3 組織の階層

組織の階層は、[組織ユニット] オブジェクト (OT_ORG_UNIT) を使用して ARIS の組織図でモデル化されます。[グループ] (OT_GRP)、[役職] (OT_POS) および [場所] (OT_LOC) の各オブジェクトも使用することができます。オブジェクト間の階層は、[上位にある] 接続線を使用してマッピングされます。



図 7: 組織階層構造

そのため、組織の階層要素は関連する組織ユニットごとに作成されます 例外：最上位階層要素は既に ARIS Risk & Compliance Manager に存在しています。

このため、上の例では組織階層要素である [組織]、[経理部]、[監査部]、[購買部] が ARIS Risk & Compliance Manager で作成されます。[組織] は、ほかの階層要素の上位に位置します。



3.1.3.3.1 組織ユニット (ABA) と組織階層要素 (ARCM) の割り当て

次の属性割り当ては [組織ユニット] オブジェクトに適用できます。

| ARIS オブジェクト | ARIS 属性 | API 名 | M* | ARCM オブジェクト | ARCM 属性 | 注意 |
|-------------|---------|--------------------------|----|-------------|-------------|--|
| 組織ユニット | 名前 | AT_NAME | ○ | HIERARCHY | name | |
| | | | | HIERARCHY | isroot | 最上位階層要素に対してのみ「true」 |
| | | | | HIERARCHY | hnumber | 組織階層には関係なし |
| | | | | HIERARCHY | type | 組織階層 (値 = 3) |
| 組織ユニット | 説明/定義 | AT_DESC | | HIERARCHY | description | |
| | | | ○ | HIERARCHY | status | アクティブの場合、ステータスは「true」 |
| 組織ユニット | サインオフ関連 | AT_AAM_SIGN_OFF_RELEVANT | ○ | HIERARCHY | signoff | |
| 組織ユニット | モデル リンク | AT_AAM_MOD_LINK | | HIERARCHY | modellink | |
| | | | | HIERARCHY | modelguid | 組織ユニットのオカレンスを含むモデルの GUID。最初に利用できる組織図が選択されます。 |
| | | | | HIERARCHY | model_name | モデル名 (上記参照) |



| ARIS オブジェクト | ARIS 属性 | API 名 | M* | ARCM オブジェクト | ARCM 属性 | 注意 |
|-------------|--------------|-----------------|----|----------------|------------|----------------------|
| 組織ユニット | オブジェクト リンク | AT_AAM_OBJ_LINK | | HIERARCHY | objectlink | |
| 組織ユニット | オブジェクトの GUID | | | HIERARCHY | objectguid | |
| | | | | HIERARCHY | children | 下位階層要素 |
| | | | | HIERARCHY | so_owner | 関連するサインオフ所有者 グループ |
| | | | | HIERARCHY | tester | 組織階層には関係なし |

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

3.1.3.4 リスクの階層 (オプション)

リスクの階層は ARIS の危機図でモデル化されます。リスク (OT_RISK) は、ここで分類できます。リスクをカテゴリ (OT_RISK_CATEGORY) の下位に配置し、関係タイプ [含む] を使用して、そのカテゴリをほかのカテゴリの下位に配置することもできます。この階層は構造化に使用されますが、[オペレーショナル リスク マネジメント] モジュールと関連付けられている場合のみ転送されます。

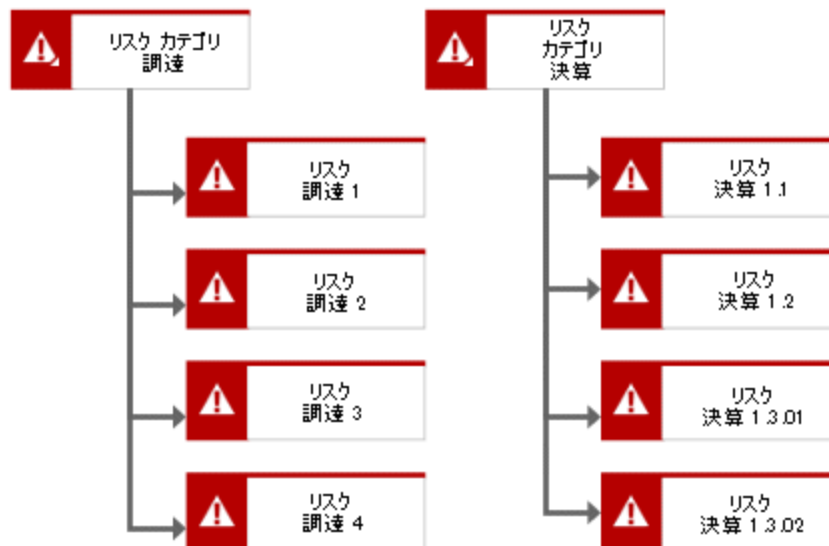


図 8: リスク階層構造

3.1.4 ユーザーとユーザー グループの作成

ユーザーおよびユーザー グループは、[要員] (OT_PERS) および [役割] (OT_PERS_TYPE) のオブジェクトを使用して ARIS Architect の組織図でモデル化されます。

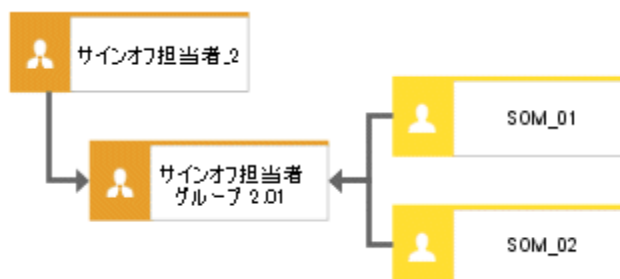


図 9: ユーザーおよびユーザー グループの構造

上位役割 [調査担当者_2] によって、ARIS Risk & Compliance Manager では下位役割が果たす役割が指定されます。これらの役割は、[汎化結果である] 接続線を使用して接続されます。[サインオフ担当者グループ 2.01] は、[サインオフ担当者_2] の汎化の結果です。作成されるグループの役割とレベルは上位役割名により定義されます。<役割>_<レベル>、つまり [サインオフ担当者_2] > 役割: サインオフ担当者、レベル: 2 (またはクライアント固有) です。



上位役割（この場合では、[サインオフ担当者_2]）には、ARIS Risk & Compliance Manager ではユーザー グループは生成されません。

以下がさまざまなレベルに適用されます。

- レベル 1: クライアント汎用
つまり、権限が複数クライアントに割り当てられます。
- レベル 2: クライアント固有
つまり、権限が特定のクライアントに割り当てられます。
- レベル 3: オブジェクト固有
つまり、方針、リスク、または統制などの特定のオブジェクトに権限が割り当てられます。

上記の例では、[サインオフ担当者グループ 2.01] ユーザー グループは、[サインオフ担当者] 役割およびレベル「2」(つまりクライアント全体にわたる権限) を使用して ARIS Risk & Compliance Manager で生成されます。さらに、ユーザー ID が「SOM_01」のユーザーが生成されます。

役割名 (ARCM) と役割 (ABA) の対応一覧

次の割り当ては、ARIS Risk & Compliance Manager での役割と ARIS Architect で使用される名前に適用されます。その他の役割については、他の表記規則マニュアルで説明しています。

| 役割 (ARCM) | 役割 (ABA) | 注意 |
|----------------------------|-------------------|---------------|
| roles.testauditor | 検査監査人 | レベル 1、2、および 3 |
| roles.testauditorexternal | 検査監査人 (外部) | レベル 1 および 2 |
| roles.deficiencyauditor.l1 | 不備監査人 (L1) | レベル 1 および 2 |
| roles.deficiencyauditor.l2 | 不備監査人 (L2) | レベル 1 および 2 |
| roles.deficiencyauditor.l3 | 不備監査人 (L3) | レベル 1 および 2 |
| roles.deficiencymanager.l1 | 不備担当者 (L1) | レベル 1 および 2 |
| roles.deficiencymanager.l2 | 不備担当者 (L2) | レベル 1 および 2 |
| roles.deficiencymanager.l3 | 不備担当者 (L3) | レベル 1 および 2 |
| roles.groupusermanager | ユーザー/ユーザー グループ担当者 | レベル 1 および 2 |
| roles.hierarchymanager | 階層担当者 | レベル 1 および 2 |
| roles.riskmanager | リスク担当者 | レベル 1、2、および 3 |
| roles.controlmanager | 統制担当者 | レベル 1、2、および 3 |
| roles.signoffmanager | サインオフ担当者 | レベル 2 のみ |
| roles.signoffreviewer | サインオフ評価者 | レベル 3 のみ |
| roles.signoffowner | サインオフ所有者 | レベル 3 のみ |



| 役割 (ARCM) | 役割 (ABA) | 注意 |
|------------------------|-----------|-------------|
| Roles.testmanager | 検査担当者 | レベル 1 および 2 |
| roles.testreviewer | 検査評価者 | レベル 3 のみ |
| roles.tester | 検査者 | レベル 3 のみ |
| roles.issueauditor | 課題監査人 | レベル 1 および 2 |
| roles.issuemanager | 課題担当者 | レベル 1 および 2 |
| roles.incidentauditor | インシデント監査人 | レベル 1 および 2 |
| roles.incidentmanager | インシデント担当者 | レベル 1 および 2 |
| roles.incidentreviewer | インシデント評価者 | レベル 3 のみ |
| roles.incidentowner | インシデント所有者 | レベル 3 のみ |
| roles.lossauditor | 損失監査人 | レベル 1 および 2 |
| roles.lossmanager | 損失担当者 | レベル 1 および 2 |
| roles.lossreviewer | 損失評価者 | レベル 3 のみ |
| roles.lossowner | 損失所有者 | レベル 3 のみ |



3.1.4.1 役割と要員の割り当て

役割 (ABA) とユーザー グループ (ARCM) の割り当て

次の割り当てを [役割 (ユーザー グループ)] オブジェクトに適用できます。

| ABA 属性 | API 名 | ARCM 属性 | M* | 注意 |
|--------|---------|--------------|----|---------------------------------------|
| 名前 | AT_NAME | name | ○ | ユーザー グループ名は最大 250 文字に制限されています。 |
| 説明/定義 | AT_DESC | description | - | |
| 役割 | - | role | ○ | [役割] と [役割レベル] の値は、上記のとおり指定されます。 |
| 役割レベル | - | rolelevel | ○ | |
| ユーザー | - | groupmembers | - | [ユーザー] は要員と役割間の [実行する] 接続線によって指定されます。 |

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。



要員 (ABA) とユーザー (ARCM) の割り当て

古いモデル作成の規則に基づいた既存のデータベースは、提供されている ARCM user migration.arx レポートを使用して移行できます。姓と名の 2 つの属性は同じ属性から派生するため、結果を確認する必要があります。

次の割り当ては [要員 (ユーザー)] オブジェクトに適用できます。

| ABA 属性 | API 名 | ARCM 属性 | M* | 注意 |
|------------|---------------|-------------|----|--|
| ログイン | AT_LOGIN | Userid | ○ | ユーザーのユーザー ID は最大 250 文字に制限されています。 |
| 名 | AT_FIRST_NAME | firstname | ○ | |
| 姓 | AT_LAST_NAME | lastname | ○ | |
| | | name | - | 姓と名の組み合わせ |
| 説明/定義 | AT_DESC | description | - | |
| 電子メール アドレス | AT_EMAIL_ADDR | email | ○ | |
| 電話番号 | AT_PHONE_NUM | phone | - | |
| | | clients | - | [クライアント] フィールドは、データのインポート先のクライアントによって指定されます。 |
| | | substitutes | - | [代理] フィールドは、手動でのみ設定されます。 |

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。



3.1.5 統制およびリスクの分析と、検査の展開

プロセスで識別された統制に関して、関連するリスクおよび検査の定義（責任を含む）は、ビジネス コントロール図で定義できます。また、どの統制がどの貸借対照表項目に影響を及ぼすかといった、企業階層への影響についても、記録することができます。

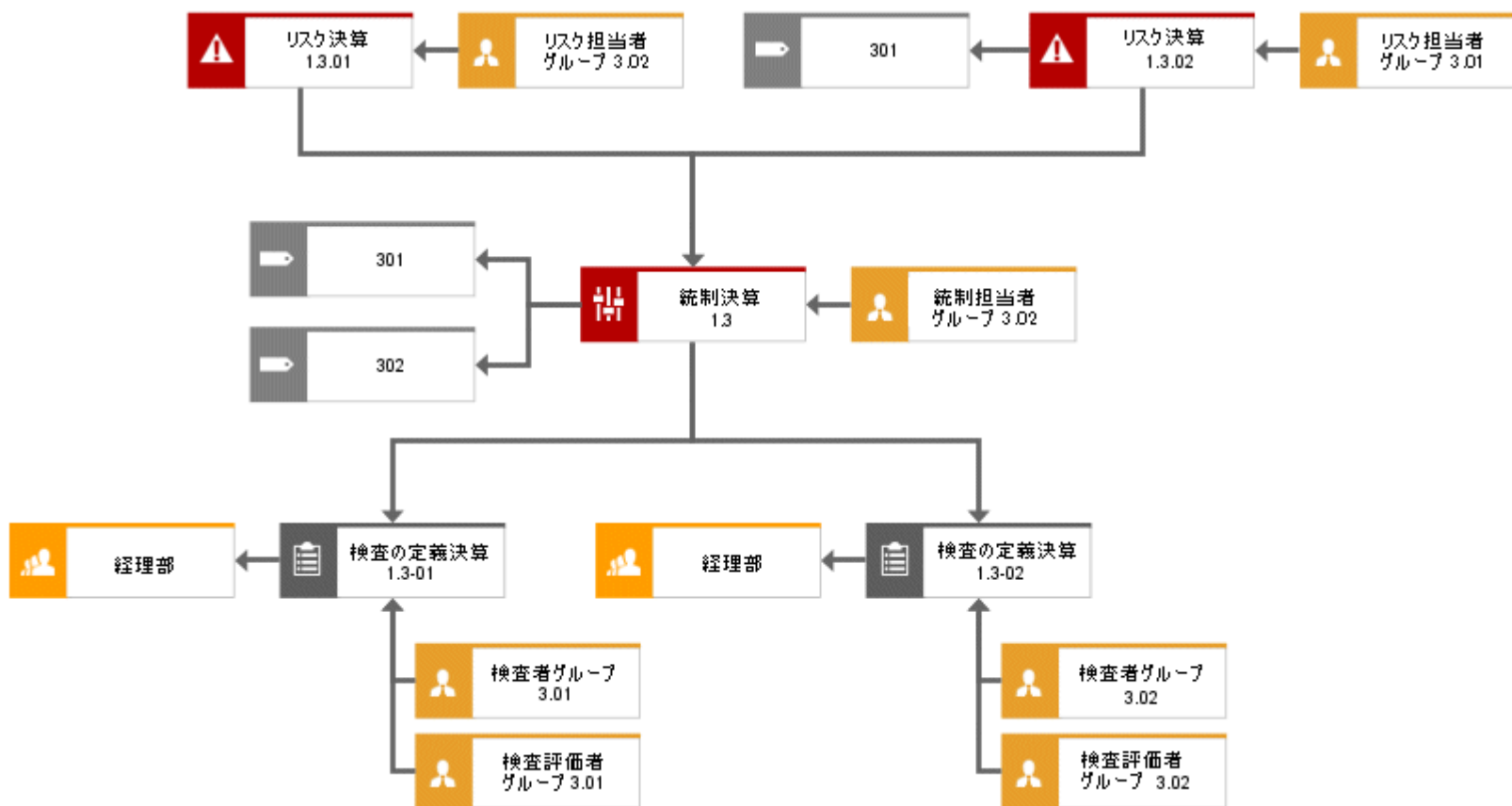


図 10: ビジネス コントロール図の構造



リスク担当者グループおよび統制担当者グループの割り当てはオプションです。

リスク オブジェクトと関連オブジェクトの関係

次の接続線がビジネス コントロール図のオブジェクトで使用できます。

| オブジェクト | 接続線 | オブジェクト | 注意 |
|--------|-----------|--------|----------------------------------|
| 統制 | 影響する | 用語 | この接続線によって、規定への関係が作成される |
| 統制 | 監視される | 検査の定義 | この接続線によって、統制への関係が作成される |
| 統制 | 技術的責任を持つ | 役割 | この接続線によって、統制担当者への関係が作成される |
| リスク | 技術的責任を持つ | 役割 | この接続線によって、リスク担当者への関係が作成される |
| リスク | 減らされる | 統制 | この接続線によって、統制への関係が作成される |
| 検査の定義 | 影響する | 組織ユニット | この接続線によって、関係する組織ユニットへの関係が作成される |
| 検査の定義 | 割り当てられている | 役割 | この接続線によって、検査者、および検査評価者への関係が作成される |



3.1.5.1 統制

統制は、[ファンクション] オブジェクト (OT_FUNC、ST_CONTR) を使用して ARIS でモデル化します。ARIS Risk & Compliance Manager では、[エクスポート関連] 属性が設定されている統制ごとに統制が作成されます。統制は一意に定義する必要があり、再使用はできません。

ファンクション (統制) (ABA) と統制 (ARCM) の割り当て

次の割り当ては [ファンクション (統制)] オブジェクトに適用できます。

| ARIS オブジェクト | ARIS 属性 | API 名 | M* | ARCM オブジェクト | ARCM 属性 | 注意 |
|-------------|---------|--|----|-------------|---------------------|---|
| 統制 | 名前 | AT_NAME | ○ | control | name | |
| 統制 | 統制 ID | AT_AAM_CTRL_ID | | control | control_id | |
| | | | | control | control_owner_group | 役割への接続線によって指定され、統制担当者への対応するリンクが ARCM に保存される |
| 統制 | 統制の頻度 | AT_AAM_CTRL_FREQUENCY | ○ | control | control_frequency | |
| 統制 | 統制の実行 | AT_AAM_CTRL_EXECUTION_MANUAL AT_AAM_CTRL_EXECUTION_IT | ○ | control | control_execution | 値が「true」の場合、ARCM で列挙が設定される |
| 統制 | 統制の効果 | AT_AAM_CTRL_EFFECT | ○ | control | control_effect | |



| ARIS オブジェクト | ARIS 属性 | API 名 | M* | ARCM オブジェクト | ARCM 属性 | 注意 |
|-------------|-----------|--|----|-------------|-------------------|--------------------------------|
| 統制 | 内部統制の構成要素 | AT_AAM_COSO_COMPONENT_CTRL_ENVIRONMENT AT_AAM_COSO_COMPONENT_RISK_ASSESSMENT AT_AAM_COSO_COMPONENT_CTRL_ACTIVITIES AT_AAM_COSO_COMPONENT_INFO_COMMUNICATION AT_AAM_COSO_COMPONENT_MONITORING | | control | control_type | 値が「true」の場合、ARCM で 列挙が設定される |
| 統制 | 統制活動 | AT_AAM_CTRL_ACTIVITY | ○ | control | controls | |
| 統制 | 統制の目的 | AT_AAM_CTRL_OBJECTIVE | | control | control_objective | |
| 統制 | キー コントロール | AT_AAM_KEY_CTRL | ○ | control | key_control | |



| ARIS オブジェクト | ARIS 属性 | API 名 | M* | ARCM オブジェクト | ARCM 属性 | 注意 |
|-------------|---------|---|----|-------------|------------------|---|
| 統制 | アサーション | AT_AAM_ASSERTIONS_EXIST_ OCCURRENCE AT_AAM_ASSERTIONS_ COMPLETENESS AT_AAM_ASSERTIONS_ RIGHTS_OBLIGATIONS AT_AAM_ASSERTIONS_ VALUATION_ALLOCATION AT_AAM_ASSERTIONS_ PRESENTATION_DISCLOSURE AT_AAM_ASSERTIONS_NA | ○ | control | assertions | 値が「true」の場合、ARCM で 列挙が設定される値の依存性 が存在する。最初の 5 つの値 は、最後のエントリと組み合わ せて発生できない。 |
| | | | | control | Control_function | ファンクションへの接続線によ って指定され、プロセス階層要 素への対応するリンクが ARCM に保存される |
| | | | | control | testdefinitions | 検査の定義への接続線によ って指定され、検査の定義へ の対応するリンクが ARCM に 保存される |



| ARIS オブジェクト | ARIS 属性 | API 名 | M* | ARCM オブジェクト | ARCM 属性 | 注意 |
|-------------|---------|-------|----|-------------|---------------------|--|
| | | | ○ | control | financial_statement | 用語への接続線によって指定され、規定階層要素への対応するリンクが ARCM に保存される |

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

3.1.5.2 リスク

リスクは、[リスク] オブジェクト (OT_RISK) を使用して ARIS でモデル化します。[エクスポート関連] の統制でモデル化されるリスクのみが ARIS Risk & Compliance Manager へのエクスポートに関連しています。リスクは再使用できます。

リスク (ABA) とリスク (ARCM) の割り当て

次の割り当ては [リスク] オブジェクトに適用できます。

| ARIS オブジェクト | ARIS 属性 | API 名 | M* | ARCM オブジェクト | ARCM 属性 | 注意 |
|-------------|---------|----------------|----|-------------|---------|----|
| リスク | 名前 | AT_NAME | ○ | risk | name | |
| リスク | リスク ID | AT_AAM_RISK_ID | | risk | risk_id | |



| | | | | | | |
|-----|--|---|---|------|------------------|--|
| リスク | リスク タイプ | AT_AAM_RISK_TYPE_ FINANCIAL_REPORT AT_AAM_RISK_TYPE_ COMPLIANCE AT_AAM_RISK_TYPE_ OPERATIONS | ○ | risk | risktype | 値が「true」の場合、ARCM で 列挙が設定される |
| リスク | 説明/定義 | AT_DESC | ○ | risk | description | |
| リスク | 影響 | AT_AAM_IMPACT | ○ | risk | impact | |
| リスク | 確率 | AT_AAM_PROBABILITY | ○ | risk | probability | |
| リスク | リスク カタログ 1 | AT_AAM_RISK_CATALOG_1 | | risk | risk_catalog1 | |
| リスク | リスク カタログ 2 | AT_AAM_RISK_CATALOG_2 | | risk | risk_catalog2 | |
| リスク | タイトル 1 およびリンク 1 ~ タ イトル 4 およびリンク 4 まで | AT_TITL1 および AT_EXT_1 など。 | | risk | documents | 文書 (O_10) が タイトルとリンク から ARCM で生成され、リスクに 接続される |
| | | | | risk | controls | 統制への接続線によって指定さ れ、統制への対応するリンクが ARCM に保存される |
| | | | | risk | risk_owner_group | 役割への接続線によって指定さ れ、リスク担当者への対応するリン クが ARCM に保存される |

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。



3.1.5.3 検査の定義

検査の定義は、[検査の定義] オブジェクト (OT_TEST_DEFINITION) を使用して ARIS でモデル化します。[エクスポート関連] の統制でモデル化される検査の定義のみが ARIS Risk & Compliance Manager へのインポートに関連しています。

検査定義 (ABA) と検査定義 (ARCM) の割り当て

次の割り当ては [検査の定義] オブジェクトに適用できます。

| ARIS オブジェクト | ARIS 属性 | API 名 | M* | ARCM オブジェクト | ARCM 属性 | 注意 |
|-------------|---------|--|----|----------------|--------------|--------------------------------|
| 検査の定義 | 名前 | AT_NAME | ○ | testdefinition | name | |
| 検査の定義 | 検査活動 | AT_AAM_TEST_ACTIVITY | ○ | testdefinition | testingsteps | |
| 検査の定義 | 検査の種類 | AT_AAM_TEST_NATURE_ INQUIRY AT_AAM_TEST_NATURE_ OBSERVATION AT_AAM_TEST_NATURE_ EXAMINATION AT_AAM_TEST_NATURE_ REPERFORMANCE | ○ | testdefinition | test_nature | 値が「true」の場合、ARCM で 列挙が設定される |



| ARIS オブジェクト | ARIS 属性 | API 名 | M* | ARCM オブジェクト | ARCM 属性 | 注意 |
|-------------|----------------------|---|----|----------------|--------------------------|---|
| 検査の定義 | 検査タイプ | AT_AAM_TEST_TYPE_DESIGN AT_AAM_TEST_TYPE_EFFECTIVENESS | ○ | testdefinition | test_type | 値が「true」の場合、ARCM で 列挙が設定される |
| 検査の定義 | 検査の規模 | AT_AAM_TEST_SCOPE | ○ | testdefinition | testextend | |
| | | | ○ | testdefinition | test_owner_group | [検査者] の役割を持つ役割への 接続線によって指定され、検査 者への対応するリンクが ARCM に保存される |
| 検査の定義 | イベント駆動のテスト ケー ス許可 | AT_EVENT_DRIVEN_TESTS_ ALLOWED | ○ | testdefinition | event_driven_allowed | 「true」が設定されている場合 は、検査の定義は自動の統制 検査にのみ使用されます。同 時に、検査の頻度は [場合に 応じる] に設定されている必要 があります。 |
| 検査の定義 | 検査の頻度 | AT_AAM_TEST_FREQUENCY | ○ | testdefinition | testfrequency | |
| 検査の定義 | 実行期限 (単位: 日) | AT_AAM_TEST_DURATION | ○ | testdefinition | testduration | |
| 検査の定義 | 検査の定義の開始日 | AT_AAM_TESTDEF_START_ DATE | ○ | testdefinition | testdefinition_startdate | |



| ARIS オブジェクト | ARIS 属性 | API 名 | M* | ARCM オブジェクト | ARCM 属性 | 注意 |
|-------------|---------------|------------------------------------|----|----------------|------------------------|--|
| 検査の定義 | 検査の定義の終了日 | AT_AAM_TESTDEF_START_DATE | | testdefinition | testdefinition_enddate | |
| 検査の定義 | 統制期間の長さ | AT_AAM_TESTDEF_CTRL_PERIOD | ○ | testdefinition | control_period | |
| 検査の定義 | オフセット (単位: 日) | AT_AAM_TESTDEF_OFFSET | ○ | testdefinition | offset | |
| | | | ○ | testdefinition | test_reviewer | [検査評価者] の役割を持つ役割への接続線によって指定され、検査評価者への対応するリンクが ARCM に保存される |
| | | | ○ | testdefinition | effected_orgunit | 組織ユニット (または、グループ、役職、場所) への接続線によって指定され、影響を受ける組織ユニットへの対応するリンクが ARCM に保存される |
| 検査の定義 | ウォークスルー名 | AT_AAM_TESTDEF_WALKTHROUGH_NAME | | testdefinition | walkthrough_name | |
| 検査の定義 | ウォークスルー カウンター | AT_AAM_TESTDEF_WALKTHROUGH_COUNTER | | testdefinition | walkthrough_counter | |
| 検査の定義 | フォローアップ使用可 | AT_AAM_TESTDEF_FOLLOWUP | ○ | testdefinition | isfollowup | |



*M 列では属性が必須項目であるかどうかが表示されます。



3.1.5.4 一般モデル作成規則

モデル化されたビジネス コントロール図内の統制は一意である必要があり、2 つ以上のビジネス コントロール図にオカレンスを持つことはできません。統制は、1 つのファンクションと、最低 1 つの検査の定義に接続することができます。

リスクは 1 つのビジネス コントロール図のみに 1 つのオカレンスを持つことができます。リスクは、[エクスポート関連] 属性が設定されている最低 1 つの統制に接続できます。

検査の定義は、モデル化されたビジネス コントロール図内で一意である必要があり、2 つ以上のビジネス コントロール図でオカレンスを持つことはできません。同時に検査の定義は、[エクスポート関連] 属性が設定されている 1 つの統制に接続することができます。

3.1.5.5 自動の統制検査

イベントを有効にすることによって自動の統制検査を実行するには、[イベント駆動のテスト ケース許可] 属性を「true」に設定する必要があります。自動の統制検査は、外部イベントなどによりアドホックで実行されます。

さらに、年内にシステムによってテスト ケースが生成されないように、[場合に応じる] 属性値を [検査の頻度] 属性に選択する必要があります。この頻度は、アドホックの検査を処理するためにのみ使用されます。

3.1.6 サインオフ

3.1.6.1 プロセス階層を使用するサインオフ

サインオフに関して、ファンクションとサインオフ所有者グループ（役割）間の関係は、付加価値連鎖図でモデル化されます。次の図に例を示します。

ARIS Risk & Compliance Manager へのエクスポートに関連するファンクションの初期選択は、[エクスポート関連] の統制への [実行される] 接続線によって指定されます。



図 11: ファンクションの割り当て - サインオフ所有者グループ

[決定する] 接続線によって、サインオフ所有者グループ（ユーザー グループ）とプロセス階層要素間の関係が作成されます。

3.1.6.2 規定階層を使用するサインオフ

規定階層を使用するサインオフに関しては、規定とサインオフ所有者グループとの関係がファンクション割当図でモデル化されます。[所有者である] 接続線によって、ユーザー グループと階層要素間の関係が作成されます。

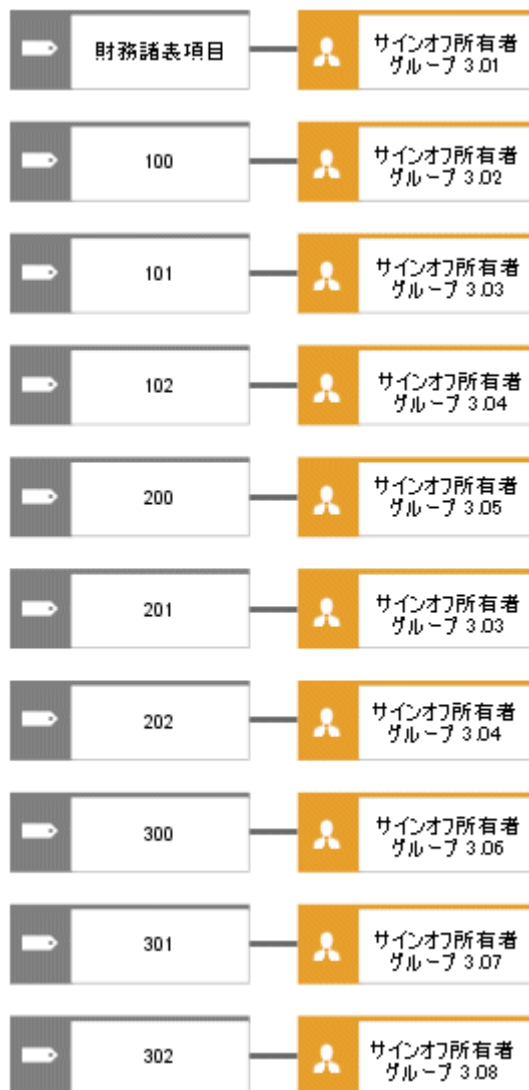


図 12: 規定 - サインオフ所有者グループの割り当て



3.1.6.3 検査者階層を使用するサインオフ

検査者階層を使用するサインオフに関しては、組織ユニットとサインオフ所有者グループの関係が検査者階層の組織図でモデル化されます。[属する] 接続線によって、ユーザーグループと階層要素間の関係が作成されます。

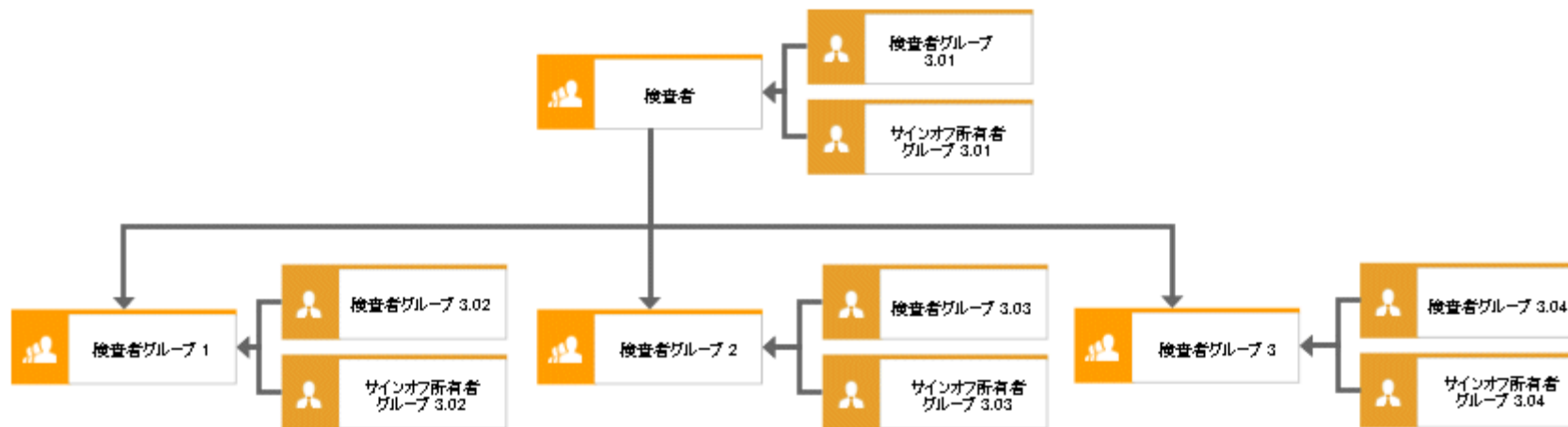


図 13: 組織ユニット (検査者) - サインオフ所有者グループの割り当て



3.1.6.4 組織階層を使用するサインオフ

サインオフに関しては、組織ユニットとサインオフ所有者グループの関係が企業組織の組織図でモデル化されます。[属する] 接続線によって、ユーザーグループと階層要素間の関係が作成されます。

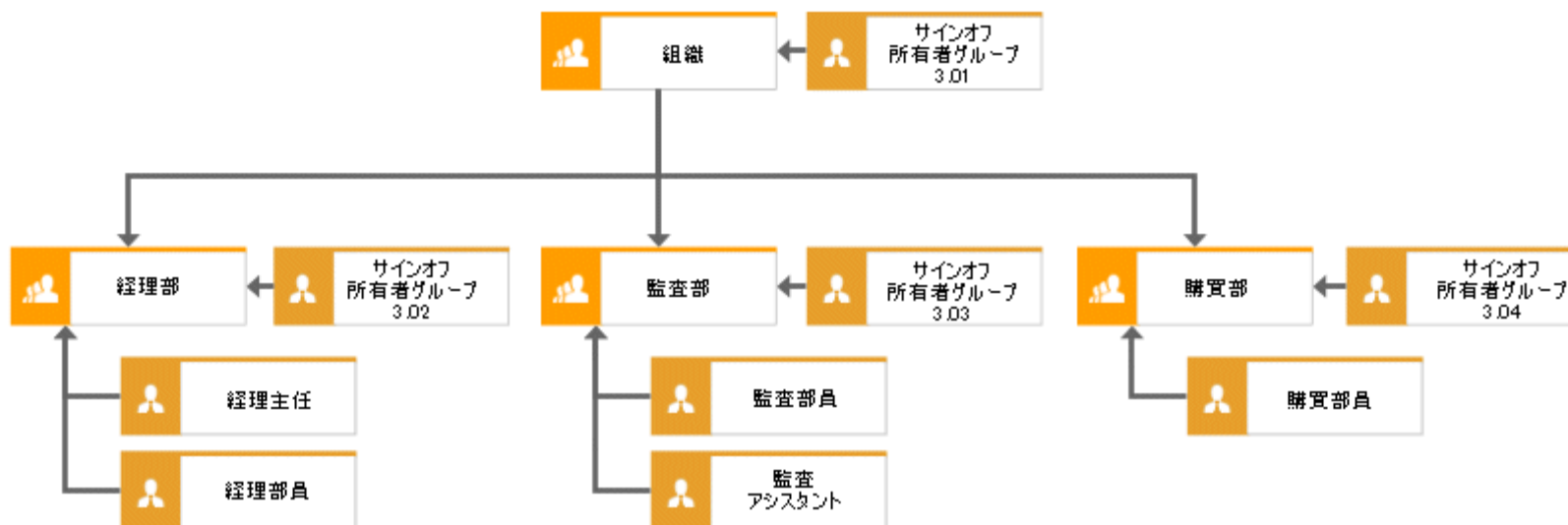


図 14: 組織ユニット (検査者) - サインオフ所有者グループ



3.2 オブジェクトと関係の非アクティブ化

ARIS Risk & Compliance Manager のオブジェクトと関係は、変更を追跡できるようにするためバージョン管理されます。そのため、ARIS Risk & Compliance Manager のオブジェクトと関係は非アクティブにされ、削除されません。つまり、対応するデータ アイテムは非アクティブになり、データベースからは削除されません。

インポートによって ARIS Risk & Compliance Manager でオブジェクト/関係を非アクティブにするには、対応するように ARIS Architect でマークする必要があります。これを実行するには、[非アクティブ] (AT_DEACT) 属性を使用します。この属性はオブジェクトと接続線の両方に設定できます。属性が設定されると、オブジェクトまたは接続線は次にインポートを実行する際に非アクティブになります。

もちろん、これが実行されるのは、ARIS Architect エクスポート ファイルにオブジェクトと関係が含まれている場合のみです。ARIS Risk & Compliance Manager へのインポートが正常に実行されたら、ARIS Architect でオブジェクト/接続線を削除できます。インポートが実行される前にオブジェクト/接続線が ARIS Architect で削除された場合は、これらを ARIS Risk & Compliance Manager で手動で非アクティブにできます。